

ラテン・アメリカ政経学会 2022 年度会員総会資料

2022 年 11 月 13 日 (日)
神戸大学六甲台キャンパス百年記念館
(オンライン併用)

議事次第

審議事項

1. 2021 年度活動報告 (理事長) (資料 1)
2. 2021 年度会計報告 (幡谷理事、飯塚監事) (資料 2)
3. 2022 年度事業計画 (理事長) (資料 3)
4. 2022 年度予算 (幡谷理事) (資料 4)
5. 在外会員の取り扱いについて (理事長) (資料 5)
6. 次期理事会について (理事長) (資料 6)
7. 次期監事について (理事長)
8. その他

報告事項

1. 『ラテン・アメリカ論集』第 56 号の発行について (桑原理事) (資料 7)
2. 『ラテン・アメリカ論集』の J-STAGE 掲載について (清水理事) (資料 8)
3. 会員の入退会について (理事長) (資料 9)
4. 2023 年度全国大会開催校 (理事長)
5. その他

以 上

資料 1

2021 年度活動報告

2021 年度に以下の事業を行った。

- (1) 11 月 13 日（土）～14 日（日）に上智大学を主催校に第 58 回全国大会をオンライン開催した。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 55 号を発行した。
- (3) 『ラテン・アメリカ論集』第 52～55 号を J-STAGE に掲載した。
- (4) 研究奨励賞に 1 件の推薦があり、審査の結果、大澤傑会員の研究業績『独裁が揺らぐとき—個人支配体制の比較政治』（ミネルヴァ書房、2020 年 3 月刊）に授賞した。
- (5) 12 月 11 日（土）に関東部会をオンライン開催した。なお、企画中、一部のセッションは日本ラテンアメリカ学会と合同で実施した。
- (6) 1 月 22 日（土）にオンライン・ラウンドテーブル（ORT）を開催した。
- (7) 2 月 15 日（火）～19 日（土）にラテンアメリカ研究東アジアネットワーク（East Asian Network of Latin American Studies: EANLAS）の活動の一環として、LASA/Asia 2022 のオンライン開催（EANLAS・LASA 共催）に協力した。
- (8) 地域研究学会連絡協議会および地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流した。
- (9) 学会ウェブサイトを更新して社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供した。

以 上

ラテン・アメリカ政経学会
2021年度 (2021年4月1日～2022年3月31日) 会計報告
(2022年3月31日現在)

収入の部			支出の部	
前期繰越金	3,633,706	A		
会員会費収入(*1)	1,155,000		2021年度全国大会開催関係費	158,356
(個人会員)	1,155,000		印刷費(論集第55号)	363,429
(維持会員)	0		消耗品費	3,687
雑収入	528		通信費(振り込み手数料含む)	88,609
(預金利息)	8		事務局経費	
(寄付*)	520		(2021年度大会講師謝金、 奨励費関連含む)	113,600
収入合計	1,155,528		支出合計	727,681
差引残高(収入-支出)	427,847	B		
			次期繰り越し金(A+B)	4,061,553

*1 2022年度会費3名および2020年度分入金を含む

会計監査報告

上記の2021年度会計報告は、領収書ほかの証拠書類と照合したところ、適正に処理されていると認めます。

2022年

11月6日

監事

飯塚倫子



監事

藤井嘉祥



資料 3

2022 年度事業計画（案）

2022 年度に以下の事業を行う。

- (1) 11 月 12 日（土）～13 日（日）に神戸大学を主催校に第 59 回全国大会を対面ハイブリッド開催する。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 56 号を発行する。
- (3) 『ラテン・アメリカ論集』バックナンバーを第 1 号から J-STAGE に掲載する。
- (4) 地方部会・オンライン・ラウンドテーブルを開催する。
- (5) 地域研究会連絡協議会および地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流する。
- (6) 研究奨励賞の選考委員会を設置して選考を行い、受賞者を決定する。
- (7) 学会ウェブサイトを通じて社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供する。ウェブサイトの英語版作成準備を進める。
- (8) 国際学術交流を実施する。
 - (i) ラテンアメリカから研究者を招聘する会員への補助事業の実施。
 - (ii) ラテンアメリカ研究東アジアネットワーク（EANLAS）への参加。
- (9) その他、本学会の目的に沿う事業を実施する。

以 上

ラテン・アメリカ政経学会
2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）予算（案）

収入の部			支出の部	
前期繰越金	4,061,553	A		
会員会費収入	950,000		2022 年全国大会開催関係費 (*1)	150,000
（個人会員）	(950,000)		印刷費・編集費 (*2)	443,036
（維持会員）	(0)		消耗品費	10,000
雑収入	10		通信費 (*3)	100,000
（預金利息）	(10)		事務局経費 (*4)	250,000
			（論集査読謝礼；大会講演謝金； 若手支援費）	
			J-STAGE 搭載委託費 (*5)	740,575
2021 年度収入合計	950,010		2022 年度支出合計	1,683,611
差し引き残額（収入－支出）	▼733,611	B		
			次期繰越金（A+B）	3,327,942

*1：ハイフレックス対応委託費+アルバイト費など。

*2：論集第 56 号見積もり額を計上。

*3：論集発送費、大会関連連絡郵送費、会費請求用振替用紙郵送・入金通知、その他手数料等。

*4：大会関連謝金等を含む。郵便局払い出し硬貨料金、Web サイトメンテナンス費用等。

*5：J-Stage バックナンバー搭載委託費はすでに 720,900 円支出済み。第 56 号のアップロード費用は論集印刷委託会社プリントボーイに委託することでより廉価になることから、その見積もり額を合わせて計上している。

資料5

在外会員の取り扱いについて（提案）

提案の骨子

海外に滞在する会員（在外会員）に対する「休会」の取り扱いを2022年度末をもって廃止する。

現在、在外会員に対しては会費の徴収を行っていない。これは、当該会員が全国大会等への参加という会員としての権利を行使できないこと、国際送金にかかる手数料が高く会費を海外から支払うことが現実的でなかったこと等を主な理由として取られてきた措置であると考えられる。なお、この「制度」は、規約等で定められているものではなく、運用ベースで行われてきたものであると推察される。

しかしコロナ禍を経た昨今、オンラインによる大会・研究会等が普通のこととなり、現に本学会でも在外会員がオンライン・ラウンドテーブルなどで積極的に報告を行い、会員一般にも大きな利益となっている。また、インターネット・バンキングの普及等により、海外に居住していても国内からと同様に会費の納入も容易にできるようになってきた。こうしたことに鑑み、在外会員に対する「休会」の取り扱いを2022年度末を持って廃止することを提案したい。

在外会員に納入をお願いする会費額や冊子体の『ラテン・アメリカ論集』の送付を行うか否かなど、取り扱いの詳細については次期理事会での検討に委ねることとしたい。また、健康上の理由その他による休会は制度として残す必要があると思われる、この機会に規約等で明確に休会制度を定めることも併せて提案したい。

以 上

資料6

次期理事会について（提案）

「ラテン・アメリカ政経学会理事選挙実施要領」の規定により、「理事の総数は10名程度とし、うち約6名は会員の選挙によりこれを選任し、約4名は選挙により選ばれた理事の推薦にもとづき会員総会においてこれを選任する」とされている。また「選挙において下位同点の場合は、それらを当選とする」とある。

先に実施された2022年理事選挙（郵便投票の後、7月11日開票）の結果、浜口申明、舩方周一郎、近田亮平、坂口安紀、河合沙織、幡谷則子、笛田千容（敬称略・得票順）の7名が選出された。またこの7名の合議により、村上善道、浦部浩之、谷洋之の3名が理事候補として推薦された。

これにもとづき、次期理事会を下記の構成として発足させることを提案したい。

理事会（2022年11月選出、任期3年）

理事長

浜口申明

常務理事

浜口申明（国際交流、規約改正）

幡谷則子（事業担当副理事長、『ラテン・アメリカ論集』編集長、渉外担当）

坂口安紀（事務局担当副理事長、規約改正、研究奨励賞担当）

谷 洋之（規約改正担当）

村上善道（会計担当）

浦部浩之（編集委員）

河合沙織（編集委員）

近田亮平（ウェブ担当・J-Stage掲載担当）

笛田千容（ウェブ・メーリングリスト管理担当）

舩方周一郎（オンライン・イベント担当）

以 上

資料 7

『ラテン・アメリカ論集』編集委員報告

『ラテン・アメリカ論集』56号の編集作業の進行状況について報告致します。56号の内容は、講演抄録2本、研究論文1本、研究ノート1本、書評3本です。

講演抄録は2021年の第58回全国大会における招待講演を講演者自身がまとめた梗概で、1本はDiego Sánchez-Ancochea氏（オックスフォード大学国際開発研究所長）の「ラテンアメリカにおける不平等：それが理論と政策に対して意味するもの」（英文梗概を講演者の希望に応じて本学会で和訳）、もう1本はKeiji Inoue氏（国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会）の「Development in transition : Concept and measurement proposal for renewed cooperation in Latin America and the Caribbean」です。

投稿論文は2本あり、2名の査読者による審査および編集委員会による協議の結果、1本を研究論文、1本を研究ノートとして掲載することとしました。書評は、会員が著者または編者となって2022年5月頃までに出版された本の中から3冊を取り上げました。なお、今年度は研究奨励賞の該当者がありませんでしたので、学会消息のみを掲載しました。

印刷は昨年と同じプリントボーイにお願いし、冊子200部を学会事務局へ送付する（12月予定）よう依頼してあります。

最後に、編集にご協力下さった会員の皆様、特に投稿論文の査読や書評の執筆をお引き受け下さった方々に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

『ラテン・アメリカ論集』56号編集担当幹事
桑原 小百合

資料 8

『ラテン・アメリカ論集』 J-STAGE への掲載

2021年9月より進めてまいりました、当学会の学会誌『ラテン・アメリカ論集』の J-STAGE へ掲載ですが、この度第1号からのバックナンバーの掲載が完了しました。J-STAGE は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルのプラットフォームです。自然科学の学会誌の掲載が多いですが、近年は社会科学や地域研究の学会誌の掲載も増えています。

J-STAGE 上の『ラテン・アメリカ論集』へのリンク

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/laronshu/-char/ja>

今後は、最新号の発行と共に J-STAGE へ掲載します。

J-STAGE への掲載により、各記事に DOI（Digital Object Identifier）が付与されます。DOI は各記事固有のインターネットのアドレスで変更されることがありません。引用文献に DOI を入れることで、いわゆるリンク切れがなくなります。Researchmap の業績などから学会ウェブサイトの『ラテン・アメリカ論集』のページにリンクを貼っている方は、新たに付与された DOI への変更をお願いいたします。

以 上

ウェブサイト管理担当 清水達也